



Wild Hunt

kiyohiko yashima

晴天時の山道をひたすら歩いて登る長髪の若い青年リチャードルソーは別荘へと向かっていた途中で、辺りを見渡した。その瞬間にイノシシが背後から突進して来た。その時、肩に背負ったショットガンを一発撃った。

そして倒れた倒れたイノシシをとっさに担いでそのまま別荘に向かって行って玄関の近くにある木工で出来た食卓の上ののせてサバイバルナイフで皮をさばいて内蔵を取り出して太い枝に縄で吊るして、その下で細かく割った丸太の木材に火をつけて火破りにしてサバイバルナイフで切り刻んでむしゃ食った。その後は別荘の中

に入って棚にあったラム酒の栓を歯で抜き取ってベッドの上に座って飲んでいたら、そのまま横になって眠った。その翌日の朝に目が覚めてシャワーを浴びていつもと違う狩人の格好に着がえてショットガンを肩に背負って布袋に昨日のイノシシの残骸を入れてロッキー山脈のふもとにある大きな河に投げ捨てに向かっていた。向かっている途中に森の中に入って行って、しばらく経って歩いていると、さわさわと物音がだんだんと鳴り響いて来た瞬間に茂みの中から熊が現れて立ち上がったので突然にイノシシの残骸が入った布袋を投げ捨てショットガンを構えて熊の心臓に向けて一発撃ったが命中せずに熊の肩に当たった。その内に熊が向かって来た瞬間に髪ぼさぼさで野生化したルソーは茂みの中へ突っ走って行って茂みの外へ出て立ち止まって突っ走って来た茂みの方に向けてショットガンを構えたが、しばらく経っても熊は追いかけて来なかった。おそらく投げ捨てて置いたイノシシの残骸が入った布袋をあさったのだろうと思い、遠まわりして別荘に戻ろうと向かって歩いていたところは車が通るほど山道に1台の4WDが向こうから走って来た。その4WDの右側の窓が開いてルソーに向けてライフル銃を撃って来たがルソーは森の中へ突っ走って行ったが4WDは追いかけるように森の中に突進して来てからライフル銃を撃って来たが突然にルソーは間髪無事で大きな木に隠れていたのだが4WDは止まって4人の男が降りて来てライフル銃を撃って来なかった。そのうち4人のリーダーらしき男が「出て来たら殺さない！」と言って来た。ルソーは出る気もせず肩に背負ったショットガンを手に持ちながら思い出していた。なぜ猟銃じゃなくショットガンなのか、それはルソーが短髪でFBI捜査官をしていた頃にショットガンで射撃訓練していたところを思い出していて、いきなりショットガンを持ったまま大きな岩山に

移動して隠れた瞬間に4人の男はライフル銃を撃って来たが4人の男は大きな岩山に隠れているはずのルソーのところまで来てライフル銃を撃ったがいなかった。ルソーは後ろにあった大きな木に隠れていて、突然にショットガンで1人目を撃って隣にあった大きな岩山へ移動する瞬間に2人目を撃って2人の男はライフル銃を撃って来たが、ルソーは岩山の隙間から3人目を撃って大きな岩山の反対側の隙間から4人のリーダーの足を狙って撃った。身動けなくなったリーダーにルソーは「なぜ襲って来たか？」と言った。そしたらリーダーは「お前はドラック取引現場を目撃した！」と言ってから、ルソーは「誰の命令か？」と言った。そしたらリーダーは「ドルコチェスコだ！」と言ってから、ルソーにライフル銃を向けて来たので4人目のリーダーを撃った。

ドルコチェスコの謎

謎の4人の男と派手な銃撃戦を終えた後に車が通るほどの広い山道に1台のパトカーがやって来た。パトカーの中から銃を持った2人の警官が銃を構えて、ルソーのところにやって来た。警官の1人が、ルソーに「銃を降ろせ！」と言ってルソーは銃を降ろして、もう1人の警官にルソーは捕われた。コロラド州にあるデンバー警察署に護送されて身元取り調べを受けたルソーはかつてFBI麻薬取締班の1人だったと知った2人の警官は麻薬組織で指名手配中だった4人の男を射殺したとして釈放される事になった。ルソーはデンバー警察署の入口を出ようとしたら、ルソーに黒人の中年FBIジョンカーロス長官が現れて「ルソー体の調子は良くなったか？」と言った。ジョンカーロス長官はコロラド州のロッキー山脈にある山の中に別荘で暮らしてる療養中のルソーを探して、たまたまデンバー警察署から情報が流れて来た。麻薬組織FBI捜査をしていた頃にジョンカーロス

長官と出会って、ルソーは麻薬組織FBI捜査に任命されて任命式を終えて直ぐにワシントンD.C.から遠く離れた港町の倉庫で麻薬組織が何者かと麻薬取引を予定してる事を麻薬組織の病的ベンウィリアムズがドラック中毒のため病院に運ばれて患者として捕われて暴露した。ルソーはベンに成りきって変装して予定している時刻の麻薬取引現場へ向かって麻薬組織にこっそりと入って行って病的なベンはあまり知られてないようではなかった。今回の任務は何者かが麻薬組織との取引をした黒幕であるかを探り出して麻薬組織すべてをぶっ潰す事が大きな狙いだった。そのために麻薬取引の港町の倉庫がちょっと見える離れた街灯のない夜の脇道にパトカー5台で警官隊がパトカーのライトを消して、ルソーの無線発信器の信号を持っていた。そしてついに倉庫でのルソーは夜20:00時頃に数々の麻薬組織とのドラック買収して来た黒幕である太った中年男が麻薬王に姿を変えて現れた。その太った中年男はドイツ大使館の外交官で「ドルコチェスコだ！」と名乗って後ろに部下を数人付けて億ドルの入ったケースを見せて十箱のドラックを載せたトラックと引き換えた。ドルコはトラック荷台に載せてあるドラックを本物である事を確かめて部下に運ばせる事にして倉庫をトラックで立ち去ろうとしたところをパトカー5台が来てルソーの無線発信器の信号を待たずに警官隊は銃を向けて止めた。ルソーのいる麻薬組織も、それにきずいて倉庫の中で機関銃を放って行って麻薬組織とドルコの部下たちは警官隊との派手な銃撃戦の中でルソーはドルコを見つけ出して部下たちと一緒に逃走して、ルソーたちは攻撃出来ずに派手な銃撃戦の中から、やっとの事で遠く離れた港にたどり着いたドルコと部下たちとルソーはドルコの船に乗り込んだ。その後、しばらく経って出航して行った海の上でドルコはルソーに名前を聞いて来たので「ベンウィリアムズ」と言った。そしたらドルコは手のひらから1本のドラックをルソーに手渡してルソーは正体がばれるから、やもえずに飲んだ。するとルソーは気持ちが悪くなって高鳴って幻覚を見るようになって有頂天になった。それが止むと耐えれなくなってドルコに頼んではドラックを飲んではい繰り返しの毎日になってから、ルソーはドラック中毒になって行った。一方で麻薬組織との警官隊の銃撃戦は警官隊が麻薬組織の大半を射殺して、残った麻薬組織は捕われた。そして十箱のドラックを載せたトラックに乗っていたドルコの部下も捕われてから、十箱のドラックも押収された。そんな中でルソーはドルコを最初から捕えるはずだった

のに、派手な銃撃戦の中で捕える事が出来ずいたルソーは船の中でドラック中毒となってしまう。ではドルコを捕えるには厳しいところをルソーは誰もいないソファに座っているドルコに銃を向けて「FBIだ！」と言って手錠をかけるところだった。その時、いきなりドルコの部下がやって来て銃を向けて撃って来たので、ルソーはとっさにソファに隠れて隙間から銃を向けて撃ったがしがみ込んでいたドルコに銃を奪われてしまってルソー対してドルコは部下に「あいつを殺せ！」と言って指示した。その後、隙を見て銃弾が飛び交う中を海に向けて走って飛び込んだ。そこは自由の女神が見えるニューヨークのマンハッタンから千km離れた海の上だったので、そこからは自由の女神リバティ公園を目指して泳いで渡って行ったルソーは公園で倒れてニューヨーク市の病院に送り込まれて安静にしていた。数日後、医者の忠告も聞かずにルソーはドラック中毒患者のまま姿を消したのだった。そしてルソーは危うく船にFBIの手帳を落として身元がばれてしまって、しかもその船はドイツへ向かって言ったらしい。

最後のベルリン

長い間の記憶から目を覚ましたルソーに黒人ジョンカーロス長官が起こして「囚捜査で麻薬組織と取引した麻薬王は誰だったか？」と言った。そしたらルソーは「あれから1年も経っても顔を忘れてない ドイツ大使館の外交官ドルコチェスコだった！」と言った。そしたらジョンカーロス長官はルソーに「それじゃワシントンD.C.まで行ってドイツ大使館で手がかりを探してみよう！」と言った。ルソーは「いいが ドラック中毒の影響で体の不安定な状況が続いてるんだ！」と言った。ジョンカーロス長官は「北部の遊牧民チェロキー族が麻薬に効くサボテンの花を知ってるらしい！」と言った。ルソーは微笑んで「じゃ チェロキー族のところに行ってみよう！」と言った。としばらくの間、ジョンカーロス長官とルソーは歩きながら話して車に乗って移動してコロラド州北部の山々の中にチョロキー族の長に遭って「サボテンの花はないか？」と言った。チェロキー族の長がルソーに「神学の煙草ならある」と言って渡して来たが、ルソーは神学の煙草を吸って見たが時々ドラックが欲しくなる発作現象は変わらなかった。チェロキー族の長は「サボテンの花はおそらく南西部にあるネイティブアメリカン教会にある」と言った。早速、ジョンカーロス長官とルソーはまた車に乗って移動して南西部にあるネイティブアメリカン教会へ訪れた。教会の中に入って行くと謎の女が現れて「私の名前はエリザベスチャン」と言った。ルソーは「俺はルソーだが、サボテンの花はないか？」と言った。チャンは「あ コヨーテの事ね！」と言って小さな青虫のようなサボテンの花を持って来た。チャンは、そのサボテンの花を1つちぎってルソーの口の中に摂取して宗教的な儀式を始めた。儀式が終わった途端にルソーは発作もなくなって、しばらく経ってたちまちよくなって行った。そしてジョンカーロス長官とルソーは車に乗って移動してワシントンD.C.のドイツ大使館へ長い時間をかけて辿り着いた。ドイツ大使館に着いたジョンカーロス長官とルソーは外交特権を無視してから、正面入口へ突入する事にした。そして中で出会ったマイティクリア秘書と名札を付けた女が現れた。ルソーはマイティ秘書に銃を向けて「ドルコチェスコは何処に逃げた？」と言った。そしたらマイティ秘書は「私は知らない！信じて！撃たないで！」と言った。するとマイティ秘書の背後からドルコの部下4人の男が銃を撃って来て、そしてマイティ秘書は撃たれた。その隙にジョンカーロス長官とルソーは隣の部屋に移った。その後、ドルコの部下4人がやって来てから、机の下に隠れていたジョンカーロス長官とルソーが突然に立ち上がって銃を撃ちまくって部下3人の男が倒れた。そして残った部下1人の男にはルソーが机から飛び出してサバイバルナイフを投げ付けて腕に刺さって倒れた。それから部下1人の男は腕を押さえながらあがいているのにも関わらず、ルソーは部下1人の男に「ドルコチェスコは今 何処だ！」と言った。そして部下1人の男に刺さっているサバイバルナイフを押し付けてやって答えた部下1人は「ドルコはドイツベルリンにいるだろう！」と言った。それでジョンカーロス長官とルソーが立ち去ろうとしたら部下1人が銃を向けて来たので、ルソーが撃って倒れた。その後、ジョンカーロス長官とルソーは自家用飛行機に乗ってベルリンに向かって行って長い空の上を過ごして、辿り着いた。そしてジョンカーロス長官とルソーはドルコが乗って来た船を探して車で港に訪れた。その船らしき物体すらなかったが進んで行く内にヨットハーバーの並んだ港に着いた。その港にはヨットハーバーが

立ち並んでいるところにドルコの船によく似た船を発見した。その船は全体的に白だったはずなのに赤に塗装されてパールホワイト号と書かれた文字は消されていた。そして船の中に入って調べる事にしたジョンカーロス長官とルソーだが、向こう側の扉をぶち破って倉庫の箱の中を調べたらドラックが入っていた。そこには百箱のドラックが積み重なっていたので、全ての箱にジッポーで火を付けて燃やして船の外で誰かが来るのを待って車の中で張り込む事にした。その夜、1台の車がやって来てから、4人の男が車から降りて船に入ってから2時間後に出て来て、車に乗って行った。その車の後ろについて行って立派な豪邸に辿り着いた。そして車から降りた4人の男は豪邸に入って行ってジョンカーロス長官とルソーも豪邸に入って行って窓から豪邸の中を見渡した。すると中にはドルコチェスコがいたので突入するつもりだったが、ドルコが怒った顔して動き出して外に出て行ってグレーのBMWグランクーペに乗って4人の男はレッドのBMW320iに乗って移動し始めた。それからはジョンカーロス長官とルソーは車で2台のBMWについて行ったらコンビナートが立ち並ぶ石油工場に辿り着いた。どうやら石油王とのドルコの高値のドラック売買らしいが、石油王が億ユーロの入ったケースを持って「物をよこせ！」と言った。そしてドルコは「そんなものするか！」と言って銃を石油王の額に向けて撃った。その後、石油王の手下とのドルコと4人の男の銃撃戦が始まってから、ジョンカーロス長官とルソーが割り込んで、ジョンカーロス長官は石油王の手下側を攻撃して派手な銃撃戦を繰り返したジョンカーロス長官は右腕を撃たれたが、石油王の手下を全滅した。ルソーはドルコと4人の男側を攻撃して派手な銃撃戦を繰り返し4人の男を撃って倒したが、ルソーは右腕を撃たれて倒れ込んでジョンカーロス長官のところに行ってから、ジョンカーロス長官を見てる際にドルコは億ユーロの入ったケースを持って走って行ってBMWグランクーペに乗って逃走して、それを追いかけたルソーはBMW320iに乗って追跡した。そして長い間、カーチェイスが続いていたが、アレックス

ホテルに辿り着いた。ドルコはBMWから降りてホテルロビーに入って行ってルソーもBMWから降りてホテルロビーに入って行ってドルコが時計台室に入って行ったのを見た。ルソーは銃を構えて時計台室に入ってから、直ぐに時計仕掛けの隙間でドルコが銃を撃って来て、ルソーは撃ってくる方向を目がけて撃っているとドルコの右肩に当たったようである。ドルコは右肩を押さえながら流れ落ちる血の痕跡を残して裏出口を出てホテルタワーの上の階にエレベーターに登って行った。その後、追って行った一番上の階の球体ルームに辿り着いた。そしてルソーは銃を構えて球体ルームに入って行って背後からドルコが銃を向けて「銃を捨てろ！お前はおじいさんに成るまでドラック中毒のままか？」と言った。そしたらルソーは銃を捨てて「あいにくだが俺は治ったよ！」と言ってドルコの銃を掴んで奪い合って落として殴り合って窓のところまで来て、ルソーはドルコにキックして胸にサバイバルナイフを投げ刺して、ルソーは落としていた銃を拾ってドルコに銃弾4発打ち込んで窓ガラスが割れてドルコはホテルタワーの上から転落して行った。こうして事件が解明して、ジョンカーロス長官とルソーは自家用飛行機に乗ってワシントンD.C.

FBI本部に戻った。そして右腕を負傷しているジョンカーロス長官と髪を切らずに長い髪ぼさぼさを束ねたルソーは表彰式に出た。

奥付

タイトル Wild Hunt

執筆・撮影 八島 聖彦

作成日 24年8月4日